

令和7年4月11日

第51号

はとバスグループ

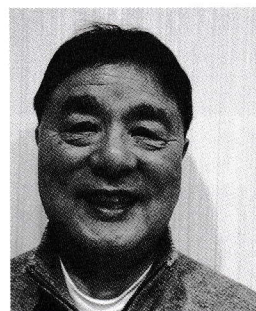
鳩友会通信

発行 鳩友会事務局

〒143-8512

東京都大田区平和島5-4-1 株式会社はとバス内
TEL:03(3761)8111/FAX:03(3761)7600左のQRコードを、スマホのカメラか
QRコードリーダーで読み取れば、バ
スワード無しですぐ、ご覧になれます別のページに移動した時にパスワードを要求されたら
hatobus8101 を入力してください。

今年、昭和100年目 鳩友会の出番です!!



はとバスグループ鳩友会

会長 門村 輝夫

1926年12月25日に昭和がスタートしました。その後、世界大戦へと向かっていき太平洋戦争の開戦、そして昭和20年に原爆投下と敗戦を経験しました。ここから目覚ましい復興を果たし、日本は世界第2位の経済国家を形成したのです。12月25日から昭和が始まった訳ですが、年末からのスタートですから、元年は7日間しかなかったのです。一方、平成へとバトンを渡した昭和64年も1月7日までで、偶然にも同じ7日間が終わっています。こうしてみると、昭和は62年間と2週間で成り立っているのです。この偶然は、昭和が起こしたミラクルを体現しているようです。激動の昭和

100年を振り返ると、そのあゆみには大きな節目があります。困難を乗り越え、創意工夫を繰り返し、よりよい明日へとつなげてきた、歴史の節目です。昭和の歩みを時代の特徴で区切ってみれば、

第一期

「国連離脱と開戦、原爆投下と敗戦」

昭和元年～昭和20年8月15日
(1926～1945)

第二期

「焼け野原から懸命の復興」
昭和20年8月16日～昭和30年
(1945～1955)

第三期

「もはや戦後ではない」から
五輪・万博開催へ」昭和31年～昭和45年
(1956～1970)

第四期

「発展と騒乱、公害の時代」

昭和46年～昭和54年
(1971～1979)

第五期

「技術大国ジャパンとバブル経済」

昭和55年～昭和64年・平成元年
(1980～1989)

第六期

「失われた30年」
平成2年～平成31年・令和元年
(1990～2019)

第七期

「コロナから明日へ」
令和2年～令和7年
(2020～2025)

と分けることが出来ると思います。

この昭和のあゆみに、はとバスの歴史を重ねてみれば、昭和23年が創業ですから、まさに昭和を知り尽くした、はとバスなのです。そして、前回の鳩友会通信で述べた通り、この激動の時代をお客さまと共に歩んだはとバスですから、(愛され 支持され 感謝される)企業として、今日を迎えることが出来たのだと思います。そしてその時代、その時代を実体験してきた鳩友会会員の存在は、今後のはとバスの発展に貴重なものとなるとおもいます。こうした考えは私だけの発想ではありません。

現役社員と元社員の関係強化を進める動きは、今後のトレンドとして各企業でも始まっているようです。これまで退職によって途切れていた会社と会社卒業生との関係を見直すことで、共創を促進し、新たな価値を

創出しようとする動きです。

具体的には、現役時代に培った経験を持ち、外部で様々な経験を積んだ会社卒業生との協力関係を出身母体の企業が構築し、新たな知識やスキルを身につけた会社卒業生が活躍する機会を創出するとともに、多様な背景を持つ会社卒業生同士の交流を促進していく。このことが、少子化や労働力不足の日本に活力を与える事になる、という発想です。

私たち鳩友会会員も、昭和100年をただ懐かしむだけではなく、これまでの経験を活かした次の100年に向かいお役に立てるよう、明るく元気に過ごしていきたいでしょう!!

